

WEEKLY REPORT

No.998

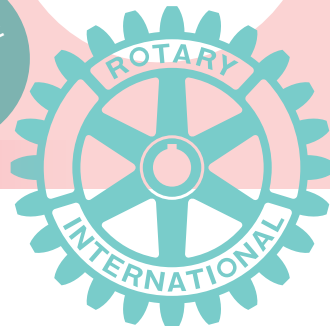


国際ロータリー第 2530 地区 郡山アーバンロータリークラブ

国際ロータリー第2530地区ガバナー 鈴木 邦典
会長 佐藤 功一
幹事 鈴木かおる



ロータリー:
変化をもたらす



第 42 回例会 H.30.5.30 (水) ☁

- ▶開会点鐘 ▶ロータリーソング「それでこそロータリー」
- ▶四つのテスト唱和 大山三起雄さん
- ▶ゲスト 岡田峰幸様 (歴史研究家)

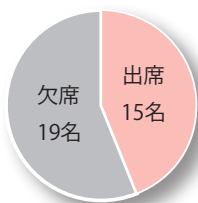
会長挨拶

佐藤 功一 会長

今日の例会後の 2 時 15 分から、日和田町のイオン郡山フェスタ店で子宮がん・乳がん予防のパンフレット配布を行います。各種がん検診の受診率が低いことから、啓蒙活動により、受診率向上に寄与したいと思います。

出席報告

宗形 千鶴 委員長



総 員 34名
出席率 44.12%
前回修正率 64.71%

スマイルBOX報告

津野 順子 副委員長

- 😊 佐藤 功一 ▶岡田峰幸様の卓話を楽しみにしています。
- 😊 岩山慎一 😊 味戸誠一郎 😊 宮澤キヨ子 😊 橋本弘幸
- 😊 大山三起雄 😊 渡邊万里子 😊 宗形千鶴 😊 津野順子

プログラム/ゲスト卓話

ゲスト紹介

津野 順子 スマイルBOX副委員長

今日のプログラムは佐藤洋子委員長が予定しておられました。岡田峰幸様に自己紹介も含めて卓話をお願いしたいと思います。



歴史研究家
岡田 峰幸 様

「郡山の戊辰戦争」

私は歴史を調べて本を書いたり、歴史のお話をしたりすることを生業としております。「リビング郡山」に月 1 回、「政経東北」にも連載しております。今年は戊辰戦争の節目の年として、福島民報に月 1 回、新選組の足跡を紹介する記事を書

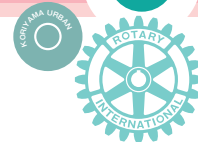
かせていただいております。

ちょうど 150 年前の 1868 年に日本のあちこちで戊辰戦争があり、

とりわけ福島県が激戦地となりました。今日は郡山の戊辰戦争について、かいつまんでご紹介したいと思います。私は 16 年ほど前にこちらにやってきました。「郡山には歴史はない」と言われましたが、調べてみたところ、伊達政宗などが活躍していた戦国時代、1588 年に郡山という地名が確認できました。その頃から経済活動が行われており、江戸時代にさらに発展して、現在の駅前周辺に 700 軒以上の家があり、人口は 3 千人ほどいたといわれています。これだけの宿場町は江戸時代でも多くはありません。

宿場町を利用するのは旅人です。須賀川、本宮に郡山と同程度の宿場があり、どこに泊まるかは旅人の自由です。江戸時代の治安は良くありませんから、ほとんどの旅人は男性です。そのため宿場には「飯盛り女」と呼ばれる女性が多くいました。須賀川と本宮には 60 人ほどでしたが、郡山には 200 人もいました。お色気の町として、郡山宿に旅人が足を止めたのではないのでしょうか。女性の頑張りによって郡山が栄えたと言えると思います。

今のうすい前あたりには、時代劇に出てくる格子窓の趣のある家がずらりと建ち並び、多くの旅人が行き来していました。現在は江戸の趣を感じさせる家はありません。戦争で焼けてしまったからです。戦争というと太平洋戦争を思い浮かべそうですが、郡山宿は 150 年前の戊辰戦争で焼失してしまいました。徳川幕府は自ら平和裏に政権を譲り、薩摩・長州が中心となって新しい政治を始めることになりました。徳川家は、それまで政治の経験がない薩摩・長州が入閣を願い出るとしていましたが、そうしなかったことから、腕づくでかたをつけようということになりました。150 年前の 1 月に、鳥羽伏見で薩摩・長州と徳川家支持派が激突します。ここで徳川側が負けてしまい、京都から大阪、江戸まで逃げました。徳川慶喜の首を取ろうと、大河ドラマの「せごどん」が東に軍隊を派遣しました。そこで慶喜が謝り、許すこととなりましたが、振り上げたこぶしを収める先として白羽の矢が立ったのが、徳川家の治安部隊として京都の平和を守っていた会津藩主の松平容保でした。薩摩・長州の軍隊が最初に戦ったのは、白河の小峰城でした。安積郡を収めていた二本松藩や、東北で一番大きい仙台藩などが会津藩に同情して小峰城に集まりました。5 月 1 日に戦いが始まりましたが、戦国時代の戦い方と、新政府軍の飛び道具では、当然、1 日で負けてしまいました。



プログラム／ゲスト卓話

当時は白河から会津に行くには、現在の国道 294 号線の勢至堂峠を通る道が一番近く、会津藩も防御を固めていましたが、新政府軍は裏をかくて東側から攻めていきました。白河から棚倉、浅川、石川を経て小野を滅ぼし、守山、三春も降参し、本宮、さらに小浜を攻め、7 月 28 日には二本松が追い詰められました。二本松藩の大人たちは白河に行っていたため、11～17 才の幼い子供たちが二本松少年隊として戦いましたが、7 月 29 日に落城してしまいました。

郡山宿を中心とした安積郡は二本松藩の領地でしたので、町を守る武士がいなくなって無秩序状態となりました。そこに守山から阿武隈川を渡って郡山宿に入った薩摩・長州を中心とする軍隊が、会津を攻める拠点にしようとした。会津藩にとっては由々しき事態です。当時は御霊櫃峠を越え、猪苗代湖を船で対岸へ渡って若松へ行くのが主要道路でしたので、会津藩は御霊櫃峠を守備しておりました。そのために会津藩は敵に利用されまいと、郡山宿を焼き払うことにしました。敵に使われそうな町は焼いてしまうことが当時の常識でした。

郡山に進駐した新政府軍がいったん守山に戻った隙をついて、8 月 7 日に御霊櫃峠から降りてきた会津兵が、郡山宿の南側に火を点けました。運悪くこの日は南風が吹いており、あっという間に延焼した火は 3 日間消えなかったとされています。人々は会津兵に気づいて避難したため死者は出ませんでした。町の 80% が焼失してしまいました。郡山の町は、薩摩・長州ではなく、会津藩に焼かれてしまったということです。

その後が郡山の偉いところです。横塚あたりに避難した人々は、鎮火後すぐに復興へ動き出しました。二本松藩は消滅し、新政府も援助を渋るため、民間の力で復興を目指しました。有力な商人たちが金を持ち寄り、まず旅籠に貸し与えました。旅籠が再建されると関連の商業も順次復興し、2 年後には完全に復興しました。民間の力だけで、行政の力は一切借りていません。戊辰戦争の被害は他の地域でもありましたが、郡山はとりわけ早く復興しています。このことがその後につながります。明治 5 年に廃藩置県が行われ、福島県にやってきたのが、開拓事業を考えていた中條政恒です。中條は開成地区から一帯を見て、開拓に適した土地であると郡山の商人たちに呼びかけました。商人たちは開拓を支援するために「開成社」を設立し、猪苗代湖から水を引き、安積疎水は明治 15 年に完成します。それまで水に不自由していた郡山、安積の土地が一気に豊かになり、農業だけでなく工業も盛んになりました。交通も整備され、一大産業地域として現在に至っております。

もし 150 年前に焼き討ちされて泣き寝入りしていたら、その後の大きな幸運は来なかったはず。当時の人々が、町をなんとかしようという思いで、今できることをやろうとした結果、水に不自由していた土地を開拓し、思いもしなかった幸運を得ることができたわけです。

よく「歴史から学ぶ」と言いますが、まさにこの話が我々のヒントとなることかと思えます。個人的にいろいろあって、いやになることもあるかもしれませんが、家にこもって交わりを断つことでは何もおきません。今日できることをやろうと表に出ることによって、大きな巡り合いがあるのではないのでしょうか。当時の郡山は自らの手で次の時代を引き寄せました。このようなことを

我々は学んでいきたいと思えます。郡山のあまり話題にされない歴史を、かいつまんでお話ししました。現在は「会津藩はよく頑張った」と言われておりますので、「郡山は会津藩に焼かれた」と騒ぐことは、ややばかられます。

ロータリー財団寄付者

■ 佐藤功一 ■ 橋本弘幸

米山記念奨学会寄付者

■ 味戸誠一郎 ■ 津野順子 ■ 佐藤功一 ■ 大山三起雄
■ 橋本弘幸

ポリオ寄付者

■ 橋本弘幸

閉会点鐘

スマイルBOX 報告

津野 順子 副委員長

5 月 30 日(水)の例会後に、イオン郡山フェスタ店で、ロータリー公共イメージと認知度の向上のため、郡山市保健所の保健師と共に、乳がん・子宮がん検診の啓発チラシ配布を行いました。

